

平成 25 年度  
事業報告書

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

学校法人湘南工科大学

理事長挨拶

「平成 25 年度の事業報告について」

「私立学校法の一部を改正する法律（平成 16 年法律第 42 号）」が平成 17 年 4 月 1 日から施行されたことに伴い、本法人では評議員会を諮問機関として事業計画を作成し、年度ごとに作成した事業報告書により報告を行っております。

本法人はその使命である教育・研究活動および社会貢献活動を充実させるべく、広くその発展に資する諸施策を実施してまいりました。

大学においては 6 号館の防音工事により静謐な学修環境を整え、アクティブラーニングの推進に伴い個性あふれる専用教室を 4 教室設え、教育の質向上を重視した事業を展開しております。

附属高等学校においてはマルチメディア教室を高度化し、教員がきめ細かく生徒を指導できる環境を構築しました。

更に、高大ともに利用する学生食堂においては施設とメニューの完全リニューアルを実施し、学生・生徒の健全な食生活の実現に強く取り組んでまいりました。

本学工学部では、基盤系学科と応用系学科の 2 つの学群からなる学科編成が社会から認知されてまいりました。基盤系学科では各分野の深遠な専門教育を施すことに、応用系学科では技術を利用して CG・デザイン・環境を学ぶことに特化しております。いずれも社会に貢献する技術者の育成を目指しており、その成果として本学は入学定員の充足と高い就職率を得たものと考えております。

附属高等学校においては特別進学・進学アドバンス・進学ベーシック・体育という 4 つのコースがその特色を存分に生かし、教育力を高めています。進学実績と競技戦績の向上というかたちで、確かな教育効果を示現しております。

また法人の目指す高大一貫教育を実現するために、大学と高校の相互理解を進め、連携の機会を数多く設けてまいりました。更に奨学制度を整え学内進学者への経済的支援も進めております。

なお、平成 25 年度末（平成 26 年 3 月 31 日現在）における卒業生等は下記のとおりです。

学部卒業生 22,956 人、大学院修了生 前期課程 588 人・後期課程 15 人、論文博士 7 人、高校卒業生 22,699 人

ここに、本法人の事業報告として平成 25 年度の事業計画の実施結果や進捗状況を述べ、報告書といたします。

学校法人 湘南工科大学  
理 事 長 糸山 英太郎

## 目 次

|               |    |
|---------------|----|
| I 学校法人の概要     | 1  |
| 1 主要な運営指標等の推移 | 1  |
| 2 建学の精神       | 3  |
| 3 沿 革         | 4  |
| 4 組織・附属機関等    | 5  |
| 5 大学院・学部在籍者数等 | 8  |
| 6 教職員数等       | 9  |
| 7 役員の状況       | 10 |
| II 事業の概要      | 14 |
| 1 事業の概要       | 14 |
| 2 財務の概要       | 23 |
| III 当面の課題     | 28 |

## I 学校法人の概要

本学校法人湘南工科大学は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神（本学の理念）に則って学校教育を行い、有為な人材を育成することを目的としています。

この目的を達成するために設置された本学校法人湘南工科大学の平成 25 年度における概要は、以下のとおりです。

### 1 主要な運営指標等の推移

| 区 分               | 平成 21 年度 |        | 平成 22 年度 |        | 平成 23 年度 |        | 平成 24 年度 |        | 平成 25 年度 |        |
|-------------------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|
|                   | 人数       | 趨勢率    | 人数       | 趨勢率    | 人数       | 趨勢率    | 人数       | 趨勢率    | 人数       | 趨勢率    |
| 学生在籍者数<br>(単位：名)  |          |        |          |        |          |        |          |        |          |        |
| 工学部               | 2,188    | 100.0% | 2,184    | 99.8%  | 2,040    | 93.2%  | 2,022    | 92.4%  | 2,031    | 92.8%  |
| 大学院工学研究科          | 83       | 100.0% | 87       | 104.8% | 77       | 92.8%  | 38       | 45.8%  | 17       | 20.5%  |
| 附属高等学校            | 1,534    | 100.0% | 1,611    | 105.0% | 1,525    | 99.4%  | 1,312    | 85.5%  | 1,303    | 84.9%  |
| 入学志願者数<br>(単位：名)  |          |        |          |        |          |        |          |        |          |        |
| 工学部               | 717      | 100.0% | 956      | 133.3% | 967      | 134.9% | 1,074    | 149.8% | 1,084    | 151.2% |
| 大学院工学研究科          | 45       | 100.0% | 44       | 97.8%  | 36       | 80.0%  | 10       | 22.2%  | 6        | 13.3%  |
| 附属高等学校            | 1,571    | 100.0% | 1,193    | 75.9%  | 849      | 54.0%  | 1,104    | 70.3%  | 1,532    | 97.5%  |
| 教職員数<br>(単位：名)    |          |        |          |        |          |        |          |        |          |        |
| 大学・大学院教員数         | 79       | 100.0% | 77       | 97.5%  | 77       | 97.5%  | 77       | 97.5%  | 75       | 94.9%  |
| 附属高等学校教員数         | 70       | 100.0% | 77       | 110.0% | 75       | 107.1% | 76       | 108.6% | 75       | 107.1% |
| 職員数               | 88       | 100.0% | 93       | 105.7% | 100      | 113.6% | 99       | 112.5% | 96       | 109.1% |
|                   | 金額       | 趨勢率    | 金額       | 趨勢率    | 金額       | 趨勢率    | 金額       | 趨勢率    | 金額       | 趨勢率    |
| 帰属収入<br>(単位：百万円)  | 4,967    | 100.0% | 4,726    | 95.1%  | 4,584    | 92.3%  | 4,642    | 93.5%  | 5,199    | 104.7% |
| 消費収入<br>(単位：百万円)  | 4,874    | 100.0% | 1,169    | 24.0%  | 3,509    | 72.0%  | 4,342    | 89.1%  | 4,313    | 88.5%  |
| 消費支出<br>(単位：百万円)  | 4,307    | 100.0% | 4,243    | 98.5%  | 4,288    | 99.6%  | 4,116    | 95.6%  | 3,881    | 90.1%  |
| 資金収入<br>(単位：百万円)  | 18,736   | 100.0% | 29,344   | 156.6% | 17,885   | 95.5%  | 12,824   | 68.4%  | 14,002   | 74.7%  |
| 資金支出<br>(単位：百万円)  | 18,249   | 100.0% | 32,396   | 177.5% | 18,194   | 99.7%  | 12,021   | 65.9%  | 12,592   | 69.0%  |
| 借入金残高<br>(単位：百万円) | 0        | -      | 0        | -      | 0        | -      | 0        | -      | 0        | -      |

(注) 1. 人数は各年度の 5 月 1 日現在

2. 在籍者数は、休学者、留年者、編入学者、再入学者、学費免除者を含む

3. 金額は百万円未満切捨て

※ 小数点以下第 2 位を四捨五入

| 区 分                       | 平成 21 年度 |        | 平成 22 年度 |        | 平成 23 年度 |        | 平成 24 年度 |        | 平成 25 年度 |        |
|---------------------------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|
|                           | 比 率      | 趨勢率    | 比 率      | 趨勢率    | 比 率      | 趨勢率    | 比 率      | 趨勢率    | 比 率      | 趨勢率    |
| 消費収支関係<br>財務比率<br>(単位：%)  |          |        |          |        |          |        |          |        |          |        |
| ①消費支出<br>比率               | 86.7     | 100.0% | 89.8     | 103.6% | 93.5     | 107.8% | 88.7     | 102.3% | 74.7     | 86.2%  |
| ②学生生徒等<br>納付金比率           | 75.4     | 100.0% | 76.1     | 100.9% | 73.1     | 96.9%  | 71.8     | 95.2%  | 64.8     | 85.9%  |
| ③人件費比率                    | 47       | 100.0% | 48.2     | 102.6% | 53.2     | 113.2% | 50.9     | 108.3% | 42.2     | 89.8%  |
| ④教育研究<br>経費比率             | 34.8     | 100.0% | 36.2     | 104.0% | 34.9     | 100.3% | 33.1     | 95.1%  | 28.3     | 81.3%  |
| ⑤帰属収支<br>差額比率             | 13.3     | 100.0% | 10.2     | 76.7%  | 6.5      | 48.9%  | 11.3     | 85.0%  | 25.3     | 190.2% |
| ⑥補助金比率                    | 16       | 100.0% | 15.7     | 98.1%  | 16.6     | 103.8% | 16.6     | 103.8% | 16.5     | 103.1% |
| ⑦寄付金比率                    | 0.7      | 100.0% | 0.4      | 57.1%  | 0.3      | 42.9%  | 0.4      | 57.1%  | 10.2     | 145.7% |
|                           | 比 率      | 趨勢率    | 比 率      | 趨勢率    | 比 率      | 趨勢率    | 比 率      | 趨勢率    | 比 率      | 趨勢率    |
| 貸借対照表<br>関係財務比率<br>(単位：%) |          |        |          |        |          |        |          |        |          |        |
| ⑧流動比率                     | 432.7    | 100.0% | 231.9    | 53.6%  | 222.0    | 51.3%  | 256.4    | 59.3%  | 349.1    | 80.7%  |
| ⑨基本金比率                    | 99.1     | 100.0% | 114.2    | 115.2% | 104.7    | 105.7% | 99.7     | 100.6% | 100.1    | 101.0% |
| ⑩負債比率                     | 11.5     | 100.0% | 11.4     | 99.1%  | 10.8     | 93.9%  | 10.3     | 89.6%  | 9.4      | 81.7%  |

(注) 上記指標は、次の算式により算出しております。

①消費支出比率＝消費支出／帰属収入

②学生生徒等納付金比率＝学生生徒等納付金／帰属収入

③人件費比率＝人件費／帰属収入

④教育研究経費比率＝教育研究経費／帰属収入

⑤帰属収支差額比率＝100%－消費支出比率

⑥補助金比率＝補助金／帰属収入

⑦寄付金比率＝寄付金／帰属収入

⑧流動比率＝流動資産／流動負債

⑨基本金比率＝基本金／基本金要組入額

⑩負債比率＝総負債／自己資金（＝基本金＋消費収支差額）

※小数点以下第2位を四捨五入

## 2 建学の精神

日本の経済のすばらしさは、世界驚異的である。しかしながら日本経済を分析してみると、世界経済に占める地位はまだ低く、最近の工業技術が向上したと言っても、不均衡と脆弱性を持っていることは否めない事実である。わが国の人口を養うためには、工業の発展と貿易の伸長とを図る以外に道がないことは明白である。ここに強固に工業立国の樹立と工業教育の充実が必要となり、近代的に聡明な工業技術者の養成が喫緊の急務となり「人づくり」の重要性が強調されるゆえんである。日本が発展するか否かは、工業の盛衰いかんにかかっている。最近の急激な技術革新の波は、学会から産業界へ、さらに国民生活全般に大きく影響を与えている。この経済の激動期にあつて、日本工業を安定させ、発展させるには、学問と産業、科学と技術の直結が必要である。このような時代の要請にこたえて、工業大学を創設し、機械工学と電気工学を中心として、有為の人材を育成し、わが国の発展に寄与しようとするのが建学の精神である。

### (1) 大学

湘南工科大学は、教育基本法に基づき、工学に関する学術の教授及び研究を行うとともに、実践的、創造的な能力を備えた人間性豊かな技術者を育成することを目的とし、併せて我が国、産業界及び地域社会の発展に寄与することを使命とする。(学則 第1条)

#### 大学の理念

本学は、学問研究の推進と、社会の規範となる人格形成を行うとともに、さらに、青年らしい夢と理想を、科学の場の中に実現することを目標とする。

#### 具体的目標

- ① 日本の科学技術をリードし、支える人材の育成を行う。
- ② 専門分野の知識と技術の向上とともに、社会人として幅広い教養を併せもった人間 形成を目指す。
- ③ 世界の中での日本の立場を理解し、日本の将来を思慮できる教育を行う。

### (2) 大学院

湘南工科大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。(学則 第1条)

### (3) 高校

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、中学校を卒業したものを勤労と責任を重んずる心身ともに健康な国民に育成するため、一般教養を高めることを目的とする。(学則 第1条)

#### 教育目標

##### 知・徳・体

- 国際社会で活躍するための知性を磨いてほしい。
- 人間関係を豊かにするような人徳をそなえてほしい。
- 苦難にも立ち向かえる強い心身をきたえてほしい。

### 3 沿革

- 昭和 36 年 4 月 (1961) 学校法人相模工業学園設立  
相模工業高等学校設立 (機械科、電気科、電子科を開設)
- 昭和 38 年 4 月 (1963) 相模工業大学設置 (工学部：機械工学科、電気工学科を開設)
- 昭和 39 年 4 月 (1964) 相模工業高等学校に普通科を開設
- 昭和 40 年 4 月 (1965) 相模工業高等学校を相模工業大学附属高等学校に名称変更
- 昭和 43 年 4 月 (1968) 相模工業大学に工学部数理工学科を開設
- 昭和 51 年 4 月 (1976) 学校法人相模工業学園を学校法人相模工業大学に名称変更
- 昭和 52 年 4 月 (1977) 相模工業大学工学部数理工学科を情報工学科に名称変更
- 平成 元 年 4 月 (1989) 相模工業大学工学部材料工学科を開設
- 平成 2 年 4 月 (1990) 学校法人相模工業大学を学校法人湘南工科大学に、相模工業大学を湘南工科大学に、相模工業大学附属高等学校を湘南工科大学附属高等学校に、それぞれ名称変更
- 平成 5 年 4 月 (1993) 湘南工科大学大学院工学研究科修士課程 (博士前期課程) を設置
- 平成 7 年 4 月 (1995) 湘南工科大学大学院工学研究科博士 (後期) 課程を開設
- 平成 9 年 3 月 (1997) 湘南工科大学附属高等学校電気科の廃止
- 平成 12 年 3 月 (2000) 湘南工科大学附属高等学校機械科・電子科の廃止
- 平成 13 年 4 月 (2001) 湘南工科大学工学部システムコミュニケーション工学科を開設  
湘南工科大学工学部電気工学科を電気電子メディア工学科に、材料工学科を  
マテリアル工学科に、それぞれ名称変更
- 平成 15 年 4 月 (2003) 湘南工科大学工学部機械デザイン工学科を開設  
湘南工科大学工学部機械工学科を機械システム工学科に名称変更
- 平成 18 年 4 月 (2006) 湘南工科大学工学部電気電子メディア工学科を電気電子工学科に、システム  
コミュニケーション工学科をコンピュータ応用学科に、湘南工科大学大学院  
工学研究科電気工学専攻を電気情報工学専攻に、それぞれ名称変更
- 平成 21 年 4 月 (2009) 湘南工科大学工学部機械システム工学科を機械工学科に、機械デザイン工学  
科をコンピュータデザイン学科にそれぞれ名称変更
- 平成 22 年 4 月 (2010) 湘南工科大学工学部人間環境学科を開設  
湘南工科大学留学生別科を開設

## 4 組織・付属機関等

### (1) 大学組織

大学は学長によって校務を掌理し、その執行部として工学部長、大学院工学研究科長、教務部長（業管規則 第 37 条）、学生部長（業管規則 第 38 条）、メディア情報センター長、産学交流センター長及び国際交流センター長がいる。学長の下に教授会が常設され、大学の重要事項が審議されている。

#### ① 学部

学部には学部長が置かれ（業管規則 第 35 条）、学科長及び総合文化教育センター長がいる（業管規則 第 41・42 条）。

#### ② 大学院

大学院工学研究科には科長及び専攻主任が置かれ（業管規則 第 36・43 条）、研究科委員会が組織され、重要な事項が審議されている。

#### ③ 留学生別科

留学生別科には別科長が置かれ（別科規程 第 27 条）、別科運営委員会が組織され、重要な事項が審議されている。

#### ④ 付属機関

##### (i) メディア情報センター

センター長は学長の命を受け、業務を総括し、メディア情報センターを代表する（業管規則 第 39 条）。その運営は運営委員会により行われている。

##### (ii) 産学交流センター

産学交流センターは産業界との研究交流及び技術情報協力を推進のために置かれている。学長の命を受け、センター長が置かれ、業務を総括する。センター運営のために運営委員会が設置されている。（設置要領 第 4・5 条）

##### (iii) 国際交流センター

国際交流センターは学術・国際交流活動を促進するために置かれている。学長の命を受けセンター長が置かれ、業務を総括する。センター運営のために運営委員会が設置されている。（設置要領 第 4・5 条）

### (2) 附属高等学校組織

附属高等学校は校長によって校務を掌理し、その執行部として教頭がいる（業管規則 第 55・56 条）。

### (3) 法人組織

学校法人湘南工科大学（以下「法人」という。）は、教育基本法及び学校教育法に従い、私立学校を設置することを目的に設置された法人であり、現在湘南工科大学及び湘南工科大学附属高等学校の 2 校を設置している。

法人における役員及び諸機関と役割は、およそ次のとおりである。

#### 理事会

法人の最高の意思決定機関である。

本学の教育・研究の充実及び向上を目的とする有効適切な経営管理を行うため、その基本的施策、方針、計画等の本法人の重要事項を審議し、決定する機関である。

寄附行為に定める理事数は 6 人以上 8 人以内である。

#### 評議員会

法人の業務の諮問機関である。

法人の管理・運営上予算や事業計画、重要な資産の処分、寄附行為の変更等重要な事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

寄附行為に定める評議員数は 21 人以上 26 人以内である。



総長

法人の設置する学校の教育を総括し（寄附行為 第 5 条の 2）、学校の教育に関わることに  
ついて理事長の諮問に答える（同 第 5 条の 5）。

理事長

法人の代表者で、法人の内務の総括者（寄附行為 第 7 条第 2 項）であり、理事会（同 第  
9 条第 3 項）及び評議員会（同 第 24 条）の招集権者である。

監事

法人の財産の状況及び理事の業務執行について監査を行う（寄附行為 第 18 条）。  
寄附行為に定める監事定数は 2 人である。

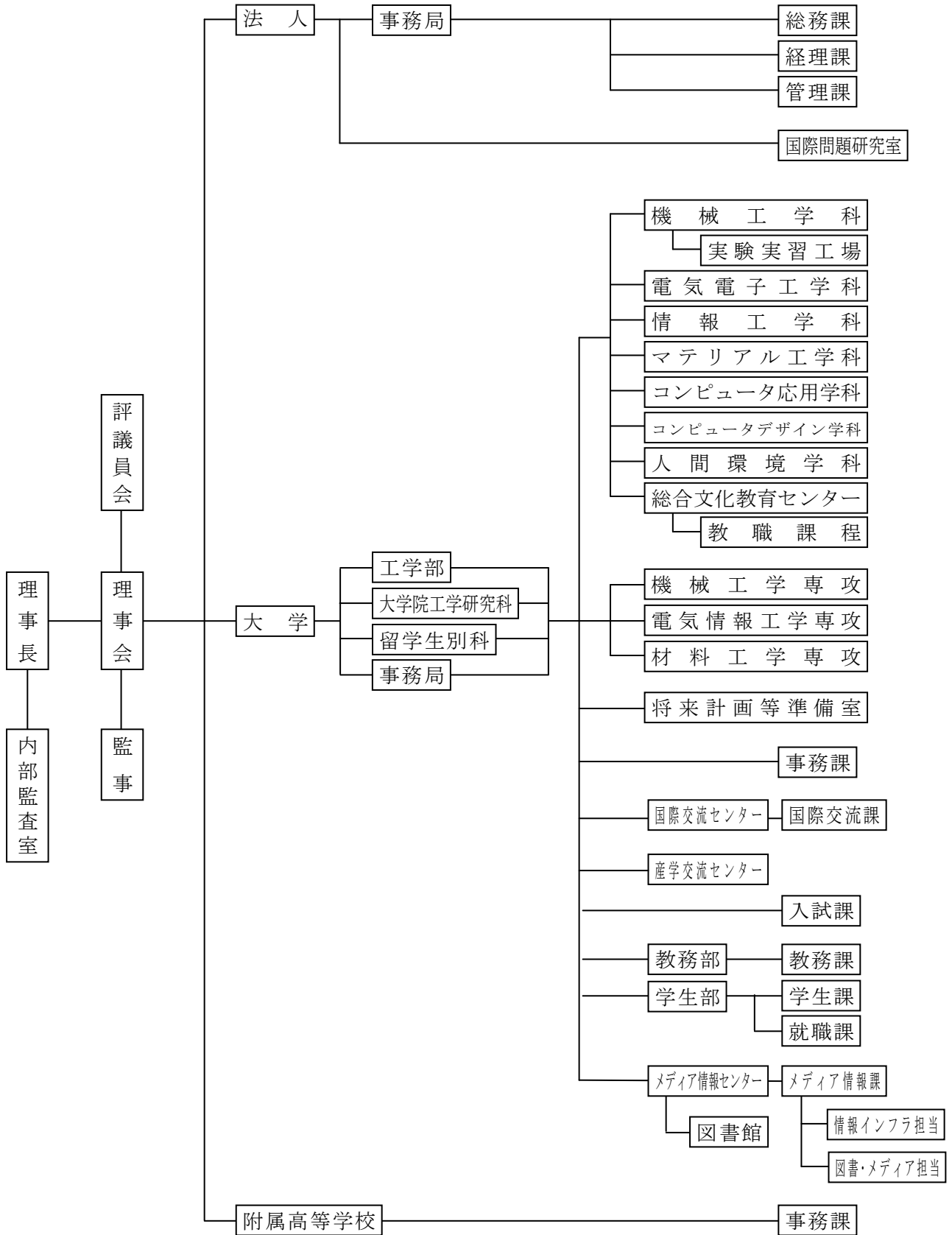
学長

大学を代表する者であり、校務を掌り、大学教職員その他を統督する（学則 第 52 条）。

校長

附属高校を代表する者であり、附属高校教職員を統督する（学則 第 28 条第 2 項）。

◎学校法人湘南工科大学組織機構図



5 大学院・学部在籍者数等（平成 25 年 5 月 1 日現在）

(1) 学部在籍学生数等

| 学 部 | 学 科 名                                   | 入学定員 | 入 学 者 数  | 収容定員  | 在 籍 者 数    |
|-----|---|------|----------|-------|------------|
| 工学部 | 機械工学科<br>(平成 21 年度機械システム工学科から改称)        | 115  | 109 ( 3) | 495   | 421 ( 7)   |
|     | 電気電子工学科                                 | 60   | 65 ( 0)  | 255   | 237 ( 3)   |
|     | 情報工学科                                   | 90   | 138 (12) | 397   | 444 (18)   |
|     | マテリアル工学科<br>(平成 22 年度より募集停止)            | -    | -        | 0     | 8 ( 0)     |
|     | コンピュータ応用学科                              | 115  | 117 ( 5) | 443   | 493 (27)   |
|     | コンピュータデザイン学科<br>(平成 21 年度機械デザイン工学科から改称) | 60   | 31 ( 4)  | 255   | 182 (16)   |
|     | 人間環境学科<br>(平成 22 年度開設)                  | 60   | 53 ( 6)  | 255   | 246 (15)   |
| 合 計 |   | 500  | 513 (20) | 2,100 | 2,031 (86) |

- (注) 1. 収容定員には編入学定員を含む。  
 2. 在籍者数には休学者、留年者、編入学者、再入学者、学費免除者を含む。  
 3. ( ) は内数として女子を示す。

(2) 大学院在籍学生数

| 課 程                   | 学 科 名    | 入学定員 | 入学者数  | 収容定員 | 在籍者数   |
|-----------------------|----------|------|-------|------|--------|
| 工学研究科<br>博士課程<br>(前期) | 機械工学専攻   | 6    | 1 (0) | 12   | 5 (0)  |
|                       | 電気情報工学専攻 | 6    | 3 (0) | 12   | 7 (0)  |
|                       | 材料工学専攻   | 6    | 0 (0) | 12   | 1 (0)  |
| 工学研究科<br>博士課程<br>(後期) | 機械工学専攻   | 2    | 1 (0) | 6    | 3 (0)  |
|                       | 電気情報工学専攻 | 2    | 0 (0) | 6    | 1 (0)  |
|                       | 材料工学専攻   | 2    | 0 (0) | 6    | 0 (0)  |
| 合 計                   |          | 24   | 5 (0) | 54   | 17 (0) |

- (注) 1. 在籍者数には休学者、留年者を含む。  
 2. ( ) は内数として女子を示す。

(3) 附属高等学校在籍生徒数

|       | 入学定員 | 入学者数      | 収容定員  | 在籍者数        |
|-------|------|-----------|-------|-------------|
| 普 通 科 | 480  | 515 (165) | 1,440 | 1,303 (405) |

- (注) 1. 在籍者数には休学者、留年者を含む。  
 2. ( ) は内数として女子を示す。

6 教職員数等（平成 25 年 5 月 1 日現在）

(1) 大学教員

| 学 科 等         | 教 授   | 准教授   | 講 師   | 助 教 | 小 計   | 特別講師            | 非常勤講師                         | 合 計                |
|---------------|-------|-------|-------|-----|-------|-----------------|-------------------------------|--------------------|
| 機械工学科         | 9     | 3     | 1     | 0   | 13    | 5(1)            | 129(28)<br>(上記以外に<br>兼務が7(2)) | 210(34)<br>(兼務を除く) |
| 電気電子工学科       | 7     | 2     | 0     | 1   | 10    |                 |                               |                    |
| 情報工学科         | 5     | 7     | 1     | 1   | 14    |                 |                               |                    |
| コンピュータ応用学科    | 4     | 4(2)  | 5(1)  | 1   | 14(3) |                 |                               |                    |
| コンピュータデザイン学科  | 5     | 1     | 0     | 1   | 7     |                 |                               |                    |
| 人間環境学科        | 8     | 1     | 1(1)  | 0   | 10(1) |                 |                               |                    |
| 総合文化教育センター    | 3(1)  | 1     | 4     | 0   | 8(1)  |                 |                               |                    |
| 合 計           | 41(1) | 19(2) | 12(2) | 4   | 76(5) | 134(29) (兼務を除く) |                               |                    |
| 専任教員と非常勤教員の比率 | 36.2% |       |       |     |       | 63.8%           |                               |                    |

(2) 大学院教員

| 専攻            | 教 授  | 准教授 | 講 師  | 助 教 | 小 計   | 非常勤講師                | 合 計              |
|---------------|------|-----|------|-----|-------|----------------------|------------------|
| 機械工学専攻        | 9    | 3   | 0    | 0   | 12    | 0<br>(上記以外に<br>兼務が1) | 44(1)<br>(兼務を除く) |
| 電気情報工学専攻      | 16   | 6   | 2    | 0   | 24    |                      |                  |
| 材料工学専攻        | 7    | 0   | 1(1) | 0   | 8(1)  |                      |                  |
| 合 計           | 32   | 9   | 3(1) | 0   | 44(1) |                      |                  |
| 専任教員と非常勤教員の比率 | 100% |     |      |     |       | 0%                   |                  |

※上記のうち、専任教員全員が学部との兼務

(3) 附属高等学校教員

| 学 科 等      | 教 諭     | 非常勤講師   | 合 計      |
|------------|---------|---------|----------|
| 附属高等学校 普通科 | 75 (16) | 29 (16) | 104 (32) |

(4) 職員数

| 所 属 別  | 専 任     | 常勤嘱託    | 契約職員    | 臨時職員    | 合 計      |
|--------|---------|---------|---------|---------|----------|
| 法 人    | 3       | 3       | 9 ( 7)  | 8 ( 6)  | 23 (13)  |
| 大 学    | 16 ( 6) | 15 ( 5) | 41 (21) | 10 ( 8) | 82 (40)  |
| 附属高等学校 | 3 ( 2)  | 3 ( 1)  | 5 ( 4)  | 6 ( 5)  | 17 (12)  |
| 合 計    | 22 ( 8) | 21 ( 6) | 55 (32) | 24 (19) | 122 (65) |

(注) 各表の ( ) は女子で内数である

7 役員の状況

<理事名簿>

| 役 名         | 区 分   | 氏 名    |
|-------------|-------|--------|
| 理 事 長 ・ 総 長 | 第 1 号 | 糸山 英太郎 |
| 常 務 理 事     | 第 3 号 | 内村 公彦  |
| 理 事 ( 学 長 ) | 第 2 号 | 松本 信雄  |
| 理 事 ( 校 長 ) | 第 2 号 | 幾田 信生  |
| 理 事         | 第 3 号 | 梅村 孝男  |
| 理 事         | 第 4 号 | 茂田 努   |
| 理 事         | 第 4 号 | 田村 弘司  |
| 監 事         |       | 箕輪 勝彦  |
| 監 事         |       | 野村 純章  |

理事 7名      監事 2名

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

<評議員名簿>

| 役 名   | 氏 名    | 区 分   |
|-------|--------|-------|
| 総 長   | 糸山 英太郎 | 第 1 号 |
| 学 長   | 松本 信雄  | 第 2 号 |
| 校 長   | 幾田 信生  | 第 2 号 |
| 評 議 員 | 天野 眞家  | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 大谷 真   | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 奥田 治雄  | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 渡辺 重佳  | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 内村 公彦  | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 茂田 努   | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 木枝 暢夫  | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 関岡 昇三  | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 長谷部 攝  | 第 3 号 |
| 評 議 員 | 新井 和吉  | 第 4 号 |
| 評 議 員 | 山口 円誉  | 第 4 号 |
| 評 議 員 | 田村 弘司  | 第 5 号 |
| 評 議 員 | 中村 保雄  | 第 6 号 |
| 評 議 員 | 小原 久直  | 第 6 号 |
| 評 議 員 | 梅村 孝男  | 第 6 号 |
| 評 議 員 | 北洞 貴也  | 第 6 号 |
| 評 議 員 | 長澤 可也  | 第 6 号 |
| 評 議 員 | 眞岩 宏司  | 第 6 号 |
| 評 議 員 | 佐藤 有史  | 第 6 号 |
| 評 議 員 | 甫坂 光男  | 第 7 号 |
| 評 議 員 | 川延 喜代二 | 第 7 号 |

評議員 24名

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

## II 事業の概要

本学校法人湘南工科大学の平成 25 年度事業の概要は、次のとおりです。

### 1 事業の概要

学校法人湘南工科大学は、平成 25 年度において、大学にあつては、国の施策である「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方」（中央教育審議会答申）「21 世紀の大学像と今後の改革方策について競争的環境の中で個性が輝く大学」（大学審議会答申）等を勘案し、改正された「大学設置基準」及び「大学院設置基準」等諸基準に沿って事業を行い、次いで「地域における生涯学習機会の充実方策」（生涯学習審議会答申）を加味し、環境の変化に対応出来る人材、社会に求められる創造性豊かな実践力のある人材育成を目指している。また、知識・技術面においてバランスの取れた技術者育成のための教育の推進及び教育条件の整備、教育方法における 1 方向の講義からアクティブラーニングへの移行、さらに研究面の活性化と産学交流の推進、本学独自の国際交流の持続的発展、公開講座等生涯教育及び地域との協同活動の推進、各学科の整備充実を図るとともに、大学院の専攻を見直すことで教育研究体制の充実を図り、大学全体の活性化を行った。更には、教育改革実行会議を創設し、大学の質的改善を図るべく種々の施策を講じてきた。

附属高等学校にあつては、教育理念である「知・徳・体」の達成のための学習指導・生活指導を行うとともに、社会の要請及び期待に応えるため、生徒・保護者からのアンケート調査や Q-U 評価等を実施し、授業方法や学級運営の改善を行い教育指導力の向上を図った。また、大学との連携を行い高大一貫教育の場としての附属高等学校という特性を生かした理工系教育を施す施策を推進した。

さらに、生徒の学校満足度の改善、地域社会との連携、国際交流等を行った。

以下に平成 25 年度におけるその主な内容を報告する。

### <大学・大学院>

#### 1. 教育に関する件

##### A. 大学の質的改善に関する事項

学長のもとに教育改革実行会議を創設し、従来、文部科学省から強く指導されていた大学の質的改善に必要な下記事項を全て決定し、必要な学則変更も行った。

(大学)

(ア) 教育理念、ミッション、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの制定とHPでの公開。

(イ) シラバスの全面改訂（16回分の学修内容、到達目標、総合評価方法、予習復習時間の設定など）とカリキュラムツリー設定

(ウ) 学修時間確保と学生の質改善のための欠席上限の設定（学則改定）

(大学院)

(ア) 専攻を3専攻から2専攻に変更する。材料工学専攻を廃止する。27年度は募集停止とする。

(イ) 教育理念、ミッション、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの制定とHPでの公開。

(ウ) シラバスの全面改訂と基準協会から指摘の第三者評価の仕組みを構築した。

(エ) 文部科学省指示である博士論文のネットでの全文公開に対応した仕組みを規定化した。

#### B. 教育内容の改善・向上に関する事項

(ア) 教育方法として、板書での1方向の講義を減らし、グループ学習などのアクティブラーニングの形態に早急に変化させる意識合わせを行うとともに、専門家の研修を4日間受けさせ26年度の授業から改革を図ることにした。

(イ) 学生証による出欠を徹底し、状況をWEBで学生が常時チェックできるようにした。

#### C. 教育の実施体制などに関する事項

(ア) 戦略的教員採用

例年より半年早く、5月には公募をだし、優秀な教員6名を採用できた。

(イ) アクティブラーニングに適した移動可能な机と椅子を配置したコラボレーションルームを4部屋用意した。

(ウ) 研究費に限定していた特別費を教育にも適用し、特別研究教育費として、12月に提案、発表、審査ののち配算した。さらに、学長裁量費の枠を設け、26年度から活用を開始することを決定した。

#### D. 学生への支援に関する事項

(ア) 大学生活における学習環境の提供と生活基盤の確保

① 1年以上にわたる督促や分割納入による引き伸ばしの悪弊を絶つために授業料延納制度を基本に置き、半年後に納入のないものは除籍とした。

② キャリア教育：3年次の後学期「進路研究」に加え、前学期「キャリア形成」を準必修とし、内容も連続性をもたせた。

③ 発達障害などの問題を抱える学生についてはカウンセラーの対応時間の延長をした。

(イ) 学習意欲の向上支援

離学者の減少の基本は大学に毎日来ることであり、そのためには授業を楽しいものにするこ  
と、仲間を作らせることが必要である。第一は出欠管理の厳密化、第二はアクティブラー  
ニングの授業の増加、第三は部活の活発化と授業の中の共同作業などを積極的にして友人がで  
きるような機会を増やすことが重要である。25年度は1番目だけだったが、授業の出席率  
は確実に上がっている。

## 2. 研究に関する件

#### A. 研究水準及び研究成果等に関する事項

(ア) 学内での教員間、学科間連携を推進し、3つの研究センターを発足させた。(次世代3D研究センター、耐雷研究センター、先進ロボット研究センター)

(イ) 競争的外部資金を獲得するための準備研究を十全に行うために特別教研費を有効に使い、限られた資源の選択と集中を行った。



(ウ) 特別研究教育費として、12月に提案、発表、審査ののち配算した。さらに、学長裁量費の枠を設け、26年度から活用を開始することを決定した。

B. 研究実施体制等の整備に関する事項

(ア) 4号館1階の使用方法を見直し、多くの部屋を整理している。26年度も引き続いてスペースの有効利用を行い、関連研究室の集中配置へと整備する

3. その他の目標達成に関する件

A. 大学改革の推進に関する件

(ア) 中期改革の方向

大学を取り巻く環境の変化と本学における現状を踏まえ、教育改革実行会議を中心に、多くのWGに若手教員を配置し極めて精力的に改革の案を作り、逐次実行してきた。26年度からの授業改革の準備は完了した。

(イ) 10年後を見据えた大学改革について

引き続き、若手教員によるWGを組織して提言をまとめてもらう。

B. 入学志願者数の確保に関する件

(ア) 募集活動について

25年度は学部新入学生532名、編入・再入学生12名の544名、大学院は博士前期課程16名、後期課程1名の17名が入学した。前年度はそれぞれ519名、4名だったので改善したと考える。今回、高校への説明において、甘い説明をせず、厳格な教育を行っていくことを強調したが、そうした教育を高校側は望んでいることが推薦入試より一般入試の大幅な増加という結果が証明している。現在の教育改革の方針・努力と効果についての事実を広報することが大事である。

附属高校からの内部進学者は5名から9名に増加したが、20名は最低線と考える。今後は制度的改革を高校と詰めていく。

(イ) 本学主催のオープンキャンパスの充実

オープンキャンパスについては昨今、高校側の指導の一環として生徒への参加を低学年から強く促している傾向が益々みられるようになってきた。本学のオープンキャンパスの内容をこれまで以上に生徒・保護者の興味を引くものとなるよう心掛けた。来場者数は総計で毎年ほぼ一定だが、学科間では変化しており、入学者の人気学科の変化に対応していた。

(ウ) 広報活動について

入試広報活動における有力なツールとしての「大学のホームページ」の重要性が益々高まっていることを踏まえ、大学ホームページのアップデート化を心掛けた。印刷媒体についても、高校生が興味を示すコンテンツを心掛け、高校訪問、オープンキャンパス等、学生募集に直結した広報活動を展開した。

C. 地域・産業界との連携に関する件

(ア) 産学連携推進協議会と産学交流フォーラムの一層の充実により、企業との連携強化を図った。

(イ) 湘南新産業創出コンソーシアム、藤沢産業フェスタなど地域での各種イベントへの積極的な

協力により、モノづくりを中心とした本学の特色を地域にアピールした。

(ウ) 社会の要望が大きい市民公開講座とアカデミックパス制度を継続して実施する。

D. 国際交流に関する件

(ア) 『六大学学術サミット』の廃止

(イ) 英文Webサイトを廃止し、日本語版を各国語で機械翻訳してもらう方法を採用した。

(ウ) 新しい英語習得法としていきなり現地で自由行動させるという思い切ったプロジェクト実習をはじめ成果が出始めている。

E. 安全危機管理に関する件

(ア) 安全管理の面から学内の校舎・敷地における災害事故を予測し、その発生を防止するための安全維持管理の制度を整えて実施してきたが、一層の徹底をする。

(イ) 種々の災害事故を想定した防災対策組織の創設、教職員・学生に対する初期緊急連絡網及び緊急対処法を定めて整備し、その周知啓蒙を行なう。ノロウイルス、新型インフルエンザについては、引き続き警戒を緩めることなく最新の情報を収集していく。これらについては持続的に充実を図る。

(ウ) 広域避難施設の指定場所としての点検を行なうとともに、引き続き非常時での地域社会との連携のあり方を検討・構築する。

<参考資料>

平成26年度入学試験結果(平成25年度実施)

| 試験区分                          | 学科名        | 募集定員              | 志願者数        | 受験者数        | 合格者数        |
|-------------------------------|------------|-------------------|-------------|-------------|-------------|
| 推薦入試<br>(指定校・校内・<br>一般公募・連携校) | 機械工学科      | 24                | 24 ( 0 )    | 24 ( 0 )    | 24 ( 0 )    |
|                               | 電気電子工学科    | 12                | 20 ( 1 )    | 20 ( 1 )    | 20 ( 1 )    |
|                               | 情報工学科      | 16                | 62 ( 1 )    | 62 ( 1 )    | 62 ( 1 )    |
|                               | コンピュータ応用学科 | 24                | 42 ( 1 )    | 42 ( 1 )    | 42 ( 1 )    |
|                               | 総合デザイン学科   | 12                | 17 ( 2 )    | 17 ( 2 )    | 17 ( 2 )    |
|                               | 人間環境学科     | 12                | 19 ( 0 )    | 19 ( 0 )    | 19 ( 0 )    |
|                               | 計          | 100               | 184 ( 5 )   | 184 ( 5 )   | 184 ( 5 )   |
| AO入試<br>(一般・Jマスター)            | 機械工学科      | 29                | 27 ( 0 )    | 27 ( 0 )    | 27 ( 0 )    |
|                               | 電気電子工学科    | 16                | 15 ( 0 )    | 15 ( 0 )    | 15 ( 0 )    |
|                               | 情報工学科      | 24                | 34 ( 0 )    | 34 ( 0 )    | 34 ( 0 )    |
|                               | コンピュータ応用学科 | 29                | 31 ( 1 )    | 31 ( 1 )    | 31 ( 1 )    |
|                               | 総合デザイン学科   | 16                | 12 ( 1 )    | 12 ( 1 )    | 12 ( 1 )    |
|                               | 人間環境学科     | 16                | 15 ( 0 )    | 15 ( 0 )    | 15 ( 0 )    |
|                               | 計          | 130               | 134 ( 2 )   | 134 ( 2 )   | 134 ( 2 )   |
| 一般入試前期<br>A・B日程               | 機械工学科      | 29                | 130 ( 1 )   | 94 ( 1 )    | 89 ( 1 )    |
|                               | 電気電子工学科    | 16                | 66 ( 1 )    | 47 ( 1 )    | 43 ( 1 )    |
|                               | 情報工学科      | 24                | 102 ( 11 )  | 80 ( 10 )   | 72 ( 8 )    |
|                               | コンピュータ応用学科 | 29                | 74 ( 2 )    | 53 ( 1 )    | 46 ( 1 )    |
|                               | 総合デザイン学科   | 16                | 21 ( 4 )    | 14 ( 4 )    | 14 ( 4 )    |
|                               | 人間環境学科     | 16                | 45 ( 4 )    | 32 ( 4 )    | 31 ( 4 )    |
|                               | 計          | 130               | 438 ( 23 )  | 320 ( 21 )  | 295 ( 19 )  |
| 大学入試センター<br>試験利用入試<br>前期      | 機械工学科      | 11                | 74 ( 3 )    | 74 ( 3 )    | 64 ( 3 )    |
|                               | 電気電子工学科    | 6                 | 27 ( 1 )    | 27 ( 1 )    | 24 ( 1 )    |
|                               | 情報工学科      | 10                | 56 ( 6 )    | 56 ( 6 )    | 52 ( 6 )    |
|                               | コンピュータ応用学科 | 11                | 37 ( 1 )    | 37 ( 1 )    | 27 ( 1 )    |
|                               | 総合デザイン学科   | 6                 | 11 ( 2 )    | 11 ( 2 )    | 10 ( 2 )    |
|                               | 人間環境学科     | 6                 | 25 ( 5 )    | 25 ( 5 )    | 22 ( 5 )    |
|                               | 計          | 50                | 230 ( 18 )  | 230 ( 18 )  | 199 ( 18 )  |
| 一般入試中期                        | 機械工学科      | 6                 | 8 ( 0 )     | 5 ( 0 )     | 5 ( 0 )     |
|                               | 電気電子工学科    | 3                 | 7 ( 1 )     | 6 ( 0 )     | 6 ( 0 )     |
|                               | 情報工学科      | 4                 | 14 ( 0 )    | 13 ( 0 )    | 13 ( 0 )    |
|                               | コンピュータ応用学科 | 6                 | 6 ( 1 )     | 5 ( 1 )     | 5 ( 1 )     |
|                               | 総合デザイン学科   | 3                 | 3 ( 0 )     | 3 ( 0 )     | 3 ( 0 )     |
|                               | 人間環境学科     | 3                 | 8 ( 1 )     | 8 ( 1 )     | 8 ( 1 )     |
|                               | 計          | 25                | 46 ( 3 )    | 40 ( 2 )    | 40 ( 2 )    |
| 大学入試センター<br>試験利用入試<br>中期      | 機械工学科      | 5                 | 7 ( 0 )     | 7 ( 0 )     | 6 ( 0 )     |
|                               | 電気電子工学科    | 2                 | 7 ( 0 )     | 7 ( 0 )     | 5 ( 0 )     |
|                               | 情報工学科      | 4                 | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     |
|                               | コンピュータ応用学科 | 5                 | 4 ( 1 )     | 4 ( 1 )     | 3 ( 1 )     |
|                               | 総合デザイン学科   | 2                 | 0 ( 0 )     | 0 ( 0 )     | 0 ( 0 )     |
|                               | 人間環境学科     | 2                 | 4 ( 1 )     | 4 ( 1 )     | 4 ( 1 )     |
|                               | 計          | 20                | 24 ( 2 )    | 24 ( 2 )    | 20 ( 2 )    |
| 一般入試後期                        | 機械工学科      | 6                 | 16 ( 1 )    | 15 ( 1 )    | 15 ( 1 )    |
|                               | 電気電子工学科    | 3                 | 11 ( 0 )    | 11 ( 0 )    | 11 ( 0 )    |
|                               | 情報工学科      | 4                 | 9 ( 2 )     | 9 ( 2 )     | 9 ( 2 )     |
|                               | コンピュータ応用学科 | 6                 | 16 ( 2 )    | 16 ( 2 )    | 16 ( 2 )    |
|                               | 総合デザイン学科   | 3                 | 1 ( 0 )     | 0 ( 0 )     | 0 ( 0 )     |
|                               | 人間環境学科     | 3                 | 10 ( 2 )    | 8 ( 2 )     | 8 ( 2 )     |
|                               | 計          | 25                | 63 ( 7 )    | 59 ( 7 )    | 59 ( 7 )    |
| 大学入試センター<br>試験利用入試<br>後期      | 機械工学科      | 5                 | 9 ( 1 )     | 9 ( 1 )     | 9 ( 1 )     |
|                               | 電気電子工学科    | 2                 | 8 ( 1 )     | 8 ( 1 )     | 8 ( 1 )     |
|                               | 情報工学科      | 4                 | 5 ( 0 )     | 5 ( 0 )     | 5 ( 0 )     |
|                               | コンピュータ応用学科 | 5                 | 3 ( 0 )     | 3 ( 0 )     | 3 ( 0 )     |
|                               | 総合デザイン学科   | 2                 | 1 ( 0 )     | 1 ( 0 )     | 1 ( 0 )     |
|                               | 人間環境学科     | 2                 | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     |
|                               | 計          | 20                | 28 ( 2 )    | 28 ( 2 )    | 28 ( 2 )    |
| 外国人留学生入試<br>前期・中期・後期          | 機械工学科      | -                 | 17 ( 0 )    | 16 ( 0 )    | 16 ( 0 )    |
|                               | 電気電子工学科    | -                 | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     |
|                               | 情報工学科      | -                 | 7 ( 4 )     | 5 ( 3 )     | 5 ( 3 )     |
|                               | コンピュータ応用学科 | -                 | 2 ( 1 )     | 1 ( 0 )     | 1 ( 0 )     |
|                               | 総合デザイン学科   | -                 | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     |
|                               | 人間環境学科     | -                 | 4 ( 1 )     | 4 ( 1 )     | 4 ( 1 )     |
|                               | 計          | -                 | 34 ( 6 )    | 30 ( 4 )    | 30 ( 4 )    |
| 編入学試験<br>前期・中期・後期             | 機械工学科      |                   | 6 ( 1 )     | 6 ( 1 )     | 6 ( 1 )     |
|                               | 電気電子工学科    |                   | 1 ( 1 )     | 1 ( 1 )     | 1 ( 1 )     |
|                               | 情報工学科      | 2年次定員<br>全学科計:20名 | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     | 2 ( 0 )     |
|                               | コンピュータ応用学科 | 3年次定員             | 5 ( 1 )     | 5 ( 1 )     | 5 ( 1 )     |
|                               | 総合デザイン学科   | 全学科計:20名          | 1 ( 1 )     | 1 ( 1 )     | 1 ( 1 )     |
|                               | 人間環境学科     |                   | 2 ( 1 )     | 2 ( 1 )     | 2 ( 1 )     |
|                               | 計          | -                 | 17 ( 5 )    | 17 ( 5 )    | 17 ( 5 )    |
| 総合計                           | 機械工学科      | 115               | 318 ( 7 )   | 277 ( 7 )   | 261 ( 7 )   |
|                               | 電気電子工学科    | 60                | 164 ( 6 )   | 144 ( 5 )   | 135 ( 5 )   |
|                               | 情報工学科      | 90                | 293 ( 24 )  | 268 ( 22 )  | 256 ( 20 )  |
|                               | コンピュータ応用学科 | 115               | 220 ( 11 )  | 197 ( 9 )   | 179 ( 9 )   |
|                               | 総合デザイン学科   | 60                | 69 ( 10 )   | 61 ( 10 )   | 60 ( 10 )   |
|                               | 人間環境学科     | 60                | 134 ( 15 )  | 119 ( 15 )  | 115 ( 15 )  |
|                               | 計          | 500               | 1198 ( 73 ) | 1066 ( 68 ) | 1006 ( 66 ) |

※( )内は女子数

平成 25 年度学部卒業生（平成 26 年 3 月 31 日現在）

| 学 部 | 学 科 名           | 卒 業 生 数  |
|-----|-----------------|----------|
| 工学部 | 機械工学科・機械システム工学科 | 75 ( 0 ) |
|     | 電気電子工学科         | 41 ( 2 ) |
|     | 情報工学科           | 67 ( 1 ) |
|     | マテリアル工学科        | 5 ( 0 )  |
|     | コンピュータ応用学科      | 91 ( 5 ) |
|     | コンピュータデザイン学科    | 45 ( 3 ) |
|     | 人間環境学科          | 45 ( 4 ) |
| 合 計 |                 | 369 (15) |

※ ( ) 内は女子で内数

平成 25 年度大学院修了生（平成 26 年 3 月 31 日現在）

| 課 程               | 学 科 名    | 修 了 生 数 |
|-------------------|----------|---------|
| 工学研究科博士課程<br>(前期) | 機械工学専攻   | 4 ( 0 ) |
|                   | 電気情報工学専攻 | 4 ( 0 ) |
|                   | 材料工学専攻   | 1 ( 0 ) |
| 工学研究科博士課程<br>(後期) | 機械工学専攻   | 0       |
|                   | 電気情報工学専攻 | 0       |
|                   | 材料工学専攻   | 0       |
| 合 計               |          | 9 ( 0 ) |

※ ( ) 内は女子で内数

大学・大学院 学費一覧（平成 25 年度入学者）

|     | 科 目   | 金 額                                       |
|-----|-------|---|
| 大学  | 入学金   | 200,000 円（入学時）                            |
|     | 授業料   | 1,030,000 円（年額）                           |
|     | 施設拡充費 | 270,000 円（年額）<br>ただし、2 年次以降は、250,000 円とする |
| 大学院 | 入学金   | 250,000 円（入学時）（学内進学者は半額）                  |
|     | 授業料   | 870,000 円（年額）                             |
|     | 施設拡充費 | 220,000 円（年額）                             |

## <附属高等学校>

### 1. 教育に関する件

#### A. 教育効果の向上を目指した措置

- (ア) 本校の教育理念「知・徳・体」の達成のために、最も肝要な「徳育」に重きを置きながら、「知育」「体育」それぞれに秀でた生徒の育成を図ってきた。この特色を引き立たせるために、「『社会で生きる個性』の育成」をモットーとして学習指導、生活指導を行ってきた。朝礼、行事などの機会を利用して意識させるとともに、「総合的な学習の時間」などを通して、抜きん出た「社会人力」「人間力」を身に付けた人格育成を志してきた。
- (イ) 学習指導要領改正に伴って準拠した教育課程を平成 25 年度入学者から実施した。本校の特色を一層生かした教育の充実を図るために、平成 26 年度入学実施の追加改訂を行った。その際、文部科学省発案の高校版キャリア教育を本校独自のものとするために、本校の「徳育」を発展させ、生徒に学業や社会性について熟知させるように工夫した。
- (ウ) 普通科の特別進学コース、進学アドバンスコース、進学ベーシックコース及び体育コースはコースの特長を生かして生徒の能力別教育の充実を図るとともに、普通科として、何れのコースでも基礎的知識の修得とその活用力育成を基本とした教育を実践してきた。
- (エ) 進学関係のコースでは、「糸山英太郎育英奨学金国立大学進学者給付」に伴って国立大学進学誘導を通して、今年度、国立大学進学者が増加した。また、コース転向希望者が多くなり、学習意欲の向上が図られた。
- (オ) 体育コースでは、インターハイにテニス部、水泳部、卓球部、体操部が出場して、全国大会を視野に入れた競技戦績の向上を図った。持続的な施設・設備の維持改善を図るために、グラウンド人工芝の補修やプール水質の維持に必要な施設修繕等を行った。トップアスリートや競技指導者を目指す教育だけでなく、進学にあっては、湘南工科大学進学による技術者を目指す方向性も含めて、学ぶ力を修得させて人間性豊かな教育を心がけてきた。

#### B. 教育内容の向上を目指した措置

- (ア) 教員力向上のために、定期的に学年会や教科会を行って教員研修を推し進めるほかに、生徒や保護者からのアンケート調査や Q・U 評価などの客観的評価によって授業方法や学級運営の改善を行った。教員研鑽にあっては 3 P 精神 (Priceless, Professional, and Proud; 無償、専門、誇りへの喜び) を標榜するとともに、自己点検報告等を含めて、極力客観的に教育力の評価を行った。
- (イ) 専任教諭、専任講師、特任講師、非常勤講師など教員の多様な勤務形態に応じて、無駄を抑えた過不足のない人員配置を心がけて行った。
- (ウ) IT 関連機器の更新に際して、LL 教室のマルチメディア教室への転換にあたり、文部科学省「IT 教育設備整備推進事業費」を申請して認可された。今後、これを契機にますます関連する視聴覚機材を用いて総合学習や各教科で効果的な学習指導を試みるとともに、生徒学校放送や学校広報活動を行いメディア教育の啓蒙を継続する。
- (エ) 特別授業を始め通常の課外授業を行うとともに、夏期には 2 年生の教科補習を試みて、課外の学習支援を行い、生徒の基礎力の向上と応用力への拡充を図った。

- (オ) 新学習指導要領に謳う「伝統・文化等に関する教育の推進」「食育の推進」「環境教育の推進」「キャリア、職業教育の推進」「体験活動の推進」「生徒指導の充実(カウンセリング等)」「社会人・補助教員等の活用」「教育の国際化」「体育活動の推進」「文化活動の推進」について日常的に本校の特色として教育業務に反映するように図った。その結果、神奈川県平成 25 年度経常経費補助金(特別補助)対象の教育としても認められた。
- (カ) キャリア教育の中で、本校が工科大学の附属高等学校であることを鑑みて、1 年生では大学の施設で研修を行い、大学教育と研究の一端を垣間見せ、今後の進路に参考とさせた。「理数科教育」の振興を促すとともに、引いては「社会人」育成に結びつけた。

### C. 生徒の学校満足度の改善を目指した措置

- (ア) 「社会で生きる個性」の体現として、学級の集団と生徒の個性の関係を重視して、Q-U テストなどによる客観的評価をあわせて学級運営と生徒指導に当たり、生徒が快適に学校生活を過ごせるように図った。
- (イ) 勉強だけではなく、高校生活で悔いのない「思い出教育」「夢を語る教育」が受けられるように、体育祭、文化祭、修学旅行などの学校行事を始め、新入生合宿などの校外学習、あるいは部活動やボランティア活動などの課外活動を実施して、生徒に実践躬行の意識を啓蒙した。
- (ウ) 生徒の学力や社会性についての相談を受ける機会を設けて、生徒や保護者に対して担任・保健室・カウンセラーが関連分掌の協力を仰ぎつつ横断的に連絡をとり合い適切な助言・指導にあたった。また、奨学金貸与等の支援を併せて、生徒の教育面・経済面での不安を解消して退学者の抑制を図った。

## 2. 大学との連携

- (ア) 今年度学内進学入学者は 11 名に過ぎず、昨年度の 10 名と同様に低調な結果になったことは至極残念である。たとえ卒業生が少なかったとはいえ、釈明できない結果である。
- 昨年度は 1 年生に大学の研究に関わる内容について生徒研修を行い、2 年生にはインターンシップで研究室と連携を試み、3 年生にはオープンキャンパスの参加を促し、また、保護者会での説明をおこなってきた。これらの学内進学の啓蒙には大学の協力を賜ってきた。昨年度施行した「糸山英太郎育英奨学金湘南工科大学進学者給付」制度や従前の内部進学制度を認知して一層の啓蒙を行い、学内進学者の増加を図る。とくに、運動部部活を通して学内進学実績があつて評価するとともに、一層の高大連携として推し進める。
- (イ) 高大一貫教育の場として、上述の大学教育研究を知る機会だけでなく、附属高等学校の行事や部活動をはじめ、大学の施設を利用していることを今まで以上に教員、生徒、保護者に意識してもらおうとともに、社会性や就業力を目指した理工系教育に理解を深めるように努めてきた。

## 3. 国際交流と地域・社会との連携

### A. 国際交流

教育のグローバル化推進のため、オーストラリアシドニー南郊の私立高校(Corpus Christi Catholic High School)と提携して海外語学研修を行った。期間中はホームステイをしながら、相手の高校生との交流を行い、語学力の向上と国際人としての素養を身につけさせた。

本校では、台湾の高雄師範大学附属高級中学校との交流会を 5 月 22 日に行った。当日は体育館にての歓迎会、バスケット部との親善試合や文化交流を通じて生徒間交流を行った。

#### B. 地域・社会との連携

本校の施設や人的資産を生かし、近隣の小・中学校や地域との連携のもとで、「食育」、「海岸清掃」、「地域コンサート」及び「クリスマス会」などの各種イベントに積極的に参加した。また、隣接の養護学校における介護実習を実施して、奉仕精神の一助とした。これらの実施にあつては隣接学校の集まりである「六校会」や地域の「高浜こども支援協議会」、あるいは、近隣の高等学校の集まりである「湘南三市私立高等学校長連絡協議会」を通じて地域の相互理解を深めるとともに、本校生徒に社会性を付与するに相応しい環境を作った。

### 4. 経営・運営管理について

#### A. 生徒募集

平成 26 年度入学の生徒募集では入学金予約金制度の廃止となり、その効果もあつて、定員 480 名、昨年度入学者 515 名を超える 604 名の入学者となった。昨年度では、県立高校の入試制度や近隣の私立高校の入試を勘案し、中学校への情報提供やその他教育機関との情報交換などを行って定員確保に至ったと見られる。

#### B. 学校運営・評価

校長・教頭の指揮の下に全教員が一丸となり、教育指導力の向上を実現するため、各校務分掌を司る主任職をとりまとめる主幹教諭並びに総括教諭が執行部要員として活動した。加えて、職階外であるが、校長補佐を設けて、校務に遺漏がないように工夫するとともに、学校運営の根幹となる生徒募集、進路指導及び生活指導をそれぞれの執行部要員に担当させた。

昨年度設けた総務部では、多様な社会的要望、とくに学校の個人情報管理、危機管理、災害対応について対応した。人事考査では、生徒による授業評価、保護者による評価、教員の授業自己評価および校務分掌への貢献を含めた教員の総合的な評価を行い、授業改善並びに生徒指導支援に寄与するように配慮した。

#### C. 教育環境の整備

教育的、入試広報的見地から各施設の機器・設備のさらなる充実および教育環境の維持管理を定期的に行っていく。すでに述べたように、IT 関連機器の更新や人工芝のメンテナンス、プールの水質改善補修を実施した。校舎や教室の維持管理については、効果的な経費配分を心がけて、大規模補修に応じた実施計画を立案した。

## 2 財務の概要（平成25年度決算の状況）

平成25年度の財務状況について、その概要を報告いたします。

学園全体の学生・生徒在籍者数は3,351名（前年度比21名減少）となりました。

主たる収入となる学生生徒等納付金は33億6,757万円（前年度比3,209万円増加）、国ならびに神奈川県からの補助金8億5,695万円（前年度比8,456万円増加）などを合計して帰属収入は51億9,938万円（前年度比5億5,683万円増加）となりました。

消費収支計算書における支出面では、人件費21億9,569万円（前年比1億6,536万円減少）教育研究経費14億7,209万円（前年度比6,577万円減少）管理経費2億218万円（前年度比295万円増加）などで合計38億8,163万円（前年度比2億3,450万円減少）となり帰属収支差額は13億1,774万円の収入超過となりました。

平成25年度は糸山英太郎育英基金の創設により、糸山財団及び糸山総長から総額約5億円のご寄附を頂戴し、全額を第3号基本金として組入れしています。また、平成22年度より開始した奨学金に係る第3号基本金も計画通り2億円の組入れとなりました。

### ■用語の説明

主な項目について用語の説明をします。経理的に厳密な定義ではありませんが、この決算報告書を理解する一助としてご利用ください。

#### 【帰属収入】

負債性のない収入で学校経営のために使用できるお金の総額です。

#### 【消費支出】

人件費、教育研究費、管理経費、その他からなり、資産費目以外の学校運営にどのようにお金が使われたかを示します。

#### 【当期消費収支差額】

消費収入から消費支出を引いたもので、収入が多い場合は当期消費収入超過額となり、支出が多ければ当期消費支出超過額となります。

#### 【貸借対照表】

年度末において、資産の取得がどのような資金で行われているのかが示されています。基本金と消費収支差額は負債ではない為、自己の資金となっています。



(1) 資金収支計算書

資金収支計算について、主な内容をご報告します。

平成 25 年度資金収支計算書

(収入の部)

(単位：千円)

| 科 目        | 決 算 額       | 前年度決算額      | 増 減       |
|------------|-------------|-------------|-----------|
| 学生生徒等納付金収入 | 3,367,579   | 3,335,482   | 32,097    |
| 手数料収入      | 92,897      | 63,657      | 29,240    |
| 寄付金収入      | 514,939     | 13,030      | 501,909   |
| 補助金収入      | 856,957     | 772,395     | 84,562    |
| 資産運用収入     | 152,617     | 172,200     | △ 19,583  |
| 資産売却収入     | 600,000     | 105,339     | 494,661   |
| 事業収入       | 47,424      | 47,519      | △ 95      |
| 雑収入        | 150,948     | 224,430     | △ 73,482  |
| 前受金収入      | 1,276,155   | 1,256,437   | 19,718    |
| その他の収入     | 8,352,718   | 8,250,577   | 102,141   |
| 資金収入調整勘定   | △ 1,409,622 | △ 1,416,920 | 7,298     |
| 前年度繰越支払資金  | 4,485,310   | 3,683,015   | 802,295   |
| 収入の部合計     | 18,487,927  | 16,507,165  | 1,980,762 |

糸山育英基金への寄付が計上されています。

今期は債券の償還が2件発生しました。

第3号基本金繰り入れ収入が増加となりました。

(支出の部)

(単位：千円)

| 科 目       | 決 算 額      | 前年度決算額     | 増 減       |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 人件費支出     | 2,238,615  | 2,457,674  | △ 219,059 |
| 教育研究経費支出  | 840,552    | 859,118    | △ 18,566  |
| 管理経費支出    | 189,760    | 187,790    | 1,970     |
| 施設関係支出    | 272,540    | 157,399    | 115,141   |
| 設備関係支出    | 120,372    | 145,912    | △ 25,540  |
| 資産運用支出    | 8,786,492  | 8,167,911  | 618,581   |
| その他の支出    | 556,807    | 579,945    | △ 23,138  |
| 資金支出調整勘定  | △ 413,104  | △ 533,898  | 120,794   |
| 次年度繰越支払資金 | 5,895,889  | 4,485,310  | 1,410,579 |
| 支出の部合計    | 18,487,927 | 16,507,165 | 1,980,762 |

糸山育英基金の運用支出が増加しています。

※千円未満切り捨て

(2) 消費収支計算書

消費収支計算について、主な内容をご報告します。

平成 25 年度消費収支計算書

(収入の部)

(単位：千円)

| 科 目      | 決 算 額     | 前年度決算額    | 増 減       |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 学生生徒等納付金 | 3,367,579 | 3,335,482 | 32,097    |
| 手数料      | 92,897    | 63,657    | 29,240    |
| 寄付金      | 532,593   | 19,989    | 512,604   |
| 補助金      | 856,957   | 772,395   | 84,562    |
| 資産運用収入   | 147,297   | 172,200   | △ 24,903  |
| 資産売却差額   | 0         | 2,128     | △ 2,128   |
| 事業収入     | 47,424    | 47,519    | △ 95      |
| 雑収入      | 154,637   | 229,183   | △ 74,546  |
| 帰属収入合計   | 5,199,387 | 4,642,556 | 556,831   |
| 基本金組入額合計 | △ 886,371 | △ 300,000 | △ 586,371 |
| 消費収入の部合計 | 4,313,015 | 4,342,556 | 29,541    |

(支出の部)

(単位：千円)

| 科 目          | 決 算 額     | 前年度決算額    | 増 減       |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 人件費          | 2,195,691 | 2,361,058 | △ 165,367 |
| 教育研究経費       | 1,472,092 | 1,537,864 | △ 65,772  |
| 管理経費         | 202,183   | 199,231   | 2,952     |
| 資産処分差額       | 4,066     | 3,665     | 401       |
| 徴収不能引当金繰入額   | 7,606     | 11,195    | △ 3,589   |
| 徴収不能額        | 0         | 3,133     | △ 3,133   |
| 消費支出の部合計     | 3,881,640 | 4,116,148 | △ 234,508 |
| 当年度消費収入超過額   | 431,375   | 226,407   | 204,968   |
| 前年度繰越消費収入超過額 | 1,552,012 | 1,133,853 | 418,159   |
| 基本金 取崩額      | 0         | 191,750   | △ 191,750 |
| 翌年度繰越消費収入超過額 | 1,983,388 | 1,552,012 | 431,376   |

帰属収入は前年度より 5 億 5,683 万円増加しました。また、支出は人件費の減少などにより前年度より 2 億 3,450 万円減少しました。この結果帰属収支差額は、前年度より 7 億 9,133 万円増加しました。

|        |           |         |         |
|--------|-----------|---------|---------|
| 帰属収支差額 | 1,317,747 | 526,408 | 791,339 |
|--------|-----------|---------|---------|

※千円未満切り捨て

(3) 貸借対照表

貸借対照表について、その主な内容をご報告します。

平成 25 年度貸借対照表

(資産の部)

(単位：千円)

| 科 目      | 本年度末       | 前年度末       | 増 減       |
|----------|------------|------------|-----------|
| 固 定 資 産  | 27,663,003 | 27,859,415 | △ 196,411 |
| 有形固定資産   | 8,947,865  | 9,185,857  | △ 237,991 |
| その他の固定資産 | 18,715,138 | 18,673,558 | 41,580    |
| 流 動 資 産  | 6,106,446  | 4,760,515  | 1,345,930 |
| 合 計      | 33,769,449 | 32,619,931 | 1,149,518 |

主に減価償却による減少です。

主に現金預金が増加しました。

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

(単位：千円)

| 科 目       | 本年度末       | 前年度末       | 増 減       |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 固 定 負 債   | 1,139,545  | 1,200,229  | △ 60,684  |
| 流 動 負 債   | 1,748,972  | 1,856,516  | △ 107,544 |
| 負債の部合計    | 2,888,517  | 3,056,746  | △ 168,228 |
| 基 本 金 の 部 | 28,897,544 | 28,011,172 | 886,371   |
| 消費収支差額の部  | 1,983,388  | 1,552,012  | 431,375   |
| 合 計       | 33,769,449 | 32,619,931 | 1,149,518 |

主に退職給与引当金が減少しました。

主に未払金が減少しました。

糸山育英基金への組入れで約 5 億円増加しました。

(単位：千円)

|       |            |            |           |
|-------|------------|------------|-----------|
| 純 資 産 | 30,880,932 | 29,563,184 | 1,317,747 |
|-------|------------|------------|-----------|

純資産 = 資産 - 負債 (= 基本金 + 消費収支差額)

※千円未満切り捨て

正味財産は 13 億 1,774 万円の増加となりました。

### Ⅲ 当面の課題

いま大学を取り巻く環境は少子化と高等教育のユニバーサル化によって選り好みしなければ誰でも大学進学が可能という状況になっています。

しかし社会が大学に求めるものは、優秀な人材の輩出であることに変わることはないと心得、全力で社会の要請に応えてゆくべきであると考えております。

日々、教育に対して様々な工夫を施し学生のやる気を喚起させることに全力をあげているところであります。

一方で、その巧拙のみが人材育成の成否を決めるわけではないとも考えております。本学はもっと実直に厳しく、人生とは一生勉強であるとの原点に立ち返るべきであるということです。高大ともに生徒・学生に基礎的な知識や常識あるいは教養というものを身に付けさせる努力を決して甘やかすことなく継続していくことが肝要であろうと考えています。

また地域社会から必要とされる教育機関であり続けるためにも、本学の持つ豊富な学びの資源を有効に活用していただき地域の振興に貢献してまいりたいと考えます。さらに地域防災の拠点としても中心的な役割を担ってゆきたいと思っております。

このような教育における様々な目標達成のためには、新たな教育研究体制をつくり、教職協働によって維持強化していくことが重要であると考えますがその基礎は安定した財政であると考えます。

長期的に安定した財政基盤を確立するために、常に収支のバランスに目配りをする健全な学校法人運営を進めてまいる所存であります。